

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2025	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称	農業経済学 II						授業形態	講義	
科目コード	251800	単位数	2	配当学年	3 年	実務経験教員担当			アクティブ ラーニング
教員氏名	姜 暲求							ICT活用	○
授業概要	農業経済学Iを受講した学生が、より広い視点で日本農業を理解できるようにする。また、園芸農業経営体の経営分析及び園芸農産物市場分析を実践してみる。そのためにまず、国際経済学に関する基礎理論を学び、農産物輸出入に関する制度・政策と園芸農産物の輸出入動向を分析する。次にエクセルによるデータ加工及び回帰分析を学び、実際データを使って分析してみる。								
関連する科目	履修前：農業経済学 I。同時履修：農産物流通論。								
授業の進め方 と方法	農業経済学Iの知識と国際経済学の基礎理論を持って、園芸農産物貿易及び園芸農業を考察する。受講生による課題発表も取り入れる。								
授業計画	1 回 授業の導入 授業の概要を説明し、農産物取引のグローバル化について学ぶ。								
	2 回 貿易パターンの理論 1 貿易パターンに関する古典的理論（絶対優位・比較優位・ヘクシャー＝オリーンモデル）について学ぶ。								
	3 回 貿易パターンの理論 2 貿易パターンに関する新しい理論（企業の外部性・産業内貿易）について学ぶ。								
	4 回 弾力性と余剰 需要・供給の弾力性及び生産者・消費者・社会余剰の概念について学ぶ。								
	5 回 貿易の利点と輸入規制 貿易（取引）の利点について学んだ後、輸入を規制する理由と手段について学ぶ。								
	6 回 中間テスト 5 回まで学んだ貿易に関する理論をテストし、解説する。								
	7 回 農産物貿易に関する国際取り決め GATTからWTO、その後のFTA協定における日本の農産物貿易取り決めについて学ぶ。								
	8 回 日本の園芸農産物輸入動向 世界の園芸農産物（野菜・果実）貿易動向と照らしながら、日本の野菜・果実の輸入動向を分析してみる。								
	9 回 日本の農産物・食品輸出戦略 2013年以後取られている日本の農産物・食品輸出戦略について学ぶ。								
	10回 日本の園芸農産物輸出の動向 2013年以後急増している園芸農産物（特に果実的野菜と果実）の輸出動向を分析してみる。								
	11回 園芸農業経営体の経営分析 1 エクセルによるデータ加工を学んだ後、受講生各自が園芸農産物のうち 1 つ品目を選び、経営体の所得・経営費などを分析してみる。								
	12回 園芸農業経営体の経営分析 2 11回目の分析を完成し、受講生が得た結果を発表・議論する。								

授業計画

	13回 園芸農産物市場分析 1 エクセルによる回帰分析を学んだ後、受講生各自が園芸農産物のうち 1 つ品目を選び、卸売市場における需要・供給曲線を分析してみる。										
	14回 園芸農産物市場分析2 13回目に続いて卸売市場における需要・供給曲線を分析してみる。										
	15回 園芸農産物市場分析 3 13回目、14回目の分析結果をまとめて、発表・議論する。										
授業の到達目標	農業経済学Ⅰを受講した学生が、より広い視点で日本農業を理解し、園芸農業を分析する力を持つこと。										
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力	(1)	○	(2)							
	2. 汎用的技能を応用し活用する能力	(1)		(2)							
	3. 人間力、社会性、国際性の涵養	(1)	○	(2)	○	(3)	○	(4)		(5)	
授業時間外の学修	〈予習〉 農林水産省及びFAOのウェブサイトなどを使って、農業経済関連の事情を知識化する。 〈復習〉 農林水産省及びFAOのウェブサイトなどを使って、農業経済関連の事情を知識化する。										
課題に対するフィードバック	中間テスト・分析課題について解説する。										
評価方法・基準	中間テスト（35％）、分析課題（65％）で評価する。										
テキスト	資料を配布する。										
参考書	1. 農林水産省、「農業白書」各年度。 2. 伊藤萬里ほか「現実からまなぶ国際経済学」有斐閣、2023年。 3. John B. Person Jr ほか「Introduction to Agricultural Economics-5th ed.」Prentice Hall, 2010.										
備考	ノートパソコンを持参すること。										